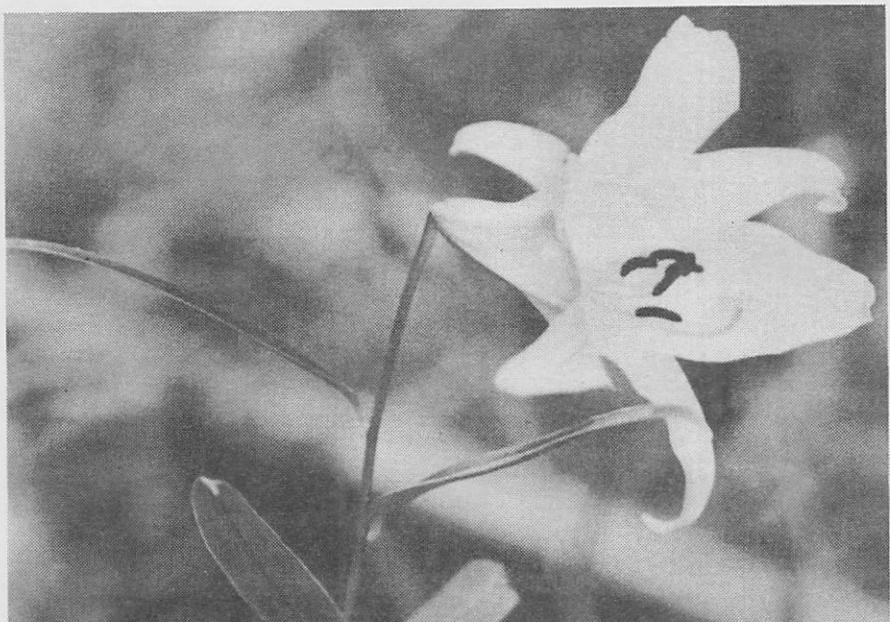


富田林の  
自 然

N o. 1



1989. 6. 18.

富田林の自然を守る会

# 「富田林の自然」の発刊に寄せて

後藤田 弘（富田林市職員労組委員長）

2年前、富田林市職員労組が市民1千人から「まちづくりアンケート」を取り、富田林のまちづくりの将来像を冊子『定住の都市』としてまとめました。

このまちづくりアンケートでは「富田林の恵まれた自然環境のなかで、少しはゆとりのある居住空間をもち、ここを『終のすみか』としよう」という“定住志向”的強さが明らかになりました。

そこで、“とんだばやし”のまちづくりの方向を「そこに永く住んで、くらしきをつみ重ね、町の味わいをあたたかく感じられる“まち”」=「定住の都市」としました。

ところが一方で、私たちの住む身近なところで、大規模開発、ゴルフ場建設、マンション建設などが進み始め、自然や緑の環境が少しづつ削り取られていくことに不安を感じさせられています。

私たちは自分たちが住むこの“まち”を“終のすみか”に出来るよう、まちづくりの原点である“自然と緑”的テーマにこだわった運動に大きな期待を寄せるものです。

この冊子を通して私たちの“終のすみか”づくりのネットワークがまちのすみずみに広がっていくことを心から願っています。

# 滝谷不動・嶽山の自然

小山田小学校 中川秀一

昨年、観察会を行いたいが、との要請があり、5月と11月に2つの観察コースのルートマップを作り、資料を作成した。それを中心にお話したい。

## 地形と地質

観察コースの中で、メタセコイアという植物の化石が、滝谷不動尊の裏山の崖と、初芝高校の下の崖のアズキ色をした粘土の層からみつかった。まわりの崖もよく見ると、粘土・砂・砂と小石などの地層が幾重にも平行に重なってできている。これは流れる水の働きによって、土砂が海の底や湖の底に、長い間かかってたまりできたものである。地質学では、大阪層群とよばれ、約300万年前から約数十万年前までに堆積したもので、スコップでもほれるぐらいにやわらかい地層である。

滝谷不動尊から、彼方配水池に向かって歩く谷沿いのコースには、この地層のつくるしま模様がよく観察できる。まだ固まっていないやわらかい地層である由に、雨水にけずられやすい。けずられ残

ったところが小高い丘となり、雑木林やミカン山として利用され、小川の流れる谷筋は、田んぼや畠に使われている。

地形図を見ると、谷間に大小の池がたくさん並んでいる。これは大阪層群の粘土の層が水を通しにくいのをうまく利用し、そこに水をためた先人の知恵であろう。また丘陵のすそには、モウソウチクやマダケの竹藪が多いが、これは、崖崩れ防止の意味もあり、意図的に守られてきたものだろう。

観察コースのなかでは、嶽山全体をつくっていて、嶽山火山岩と呼ばれる安山岩や、城山オレンジ園のまわりに見られ、金胎寺山をつくっている花崗岩も見られるが、ここではふれない。

## 森や林

人々が焼畑や水田などの農耕をはじめる前の大阪の自然は、川のまわり、湿地、崩れやすい山の尾根を除いて、ほとんどシイ・カシを中心とするこんもりした、昼なお暗い、じめじめとした森だったといわれている。

その名ごりが今なお残る神社や寺の森だと考えてよい。彼方春日神社のシリブカガシを中心とし、コジイの混ざる林、滝谷不動明王寺裏山のアラカシ・コジイ林、竜泉寺のコジイ林などはこのよい例であろう。またコース沿いの山々に、ぽつんぽつんとコジイの大木が残のも、人間が切り開く前に、このあたり一体がシイ林であったことを物語る。

人がふえ、田畠が広がるとともに、そのまわりに別のタイプの林が広がった。煮炊き用の薪や炭をつくるための林（コナラ・クヌギ林）、明かりをとり、灰を肥料にする林（アカマツ林）、タケノコをとり、その皮やタケを利用するチク林。これらは人家に近く、昔から生活全般にわたって利用され、手入れされ、守られてきた、私たちに一番身近な森だ。コースの多くは、この里山林といわれるものだ。

ほかには、材木をとるための植林、スギ・ヒノキ林がある。

#### 彼方のゴルフ場の計画について

この2回の観察会は、府道守屋一狭山線をはさんで、滝谷不動尊の一角を残し、北は楠風台のすぐ横まで、南は、初芝高校のすぐ下

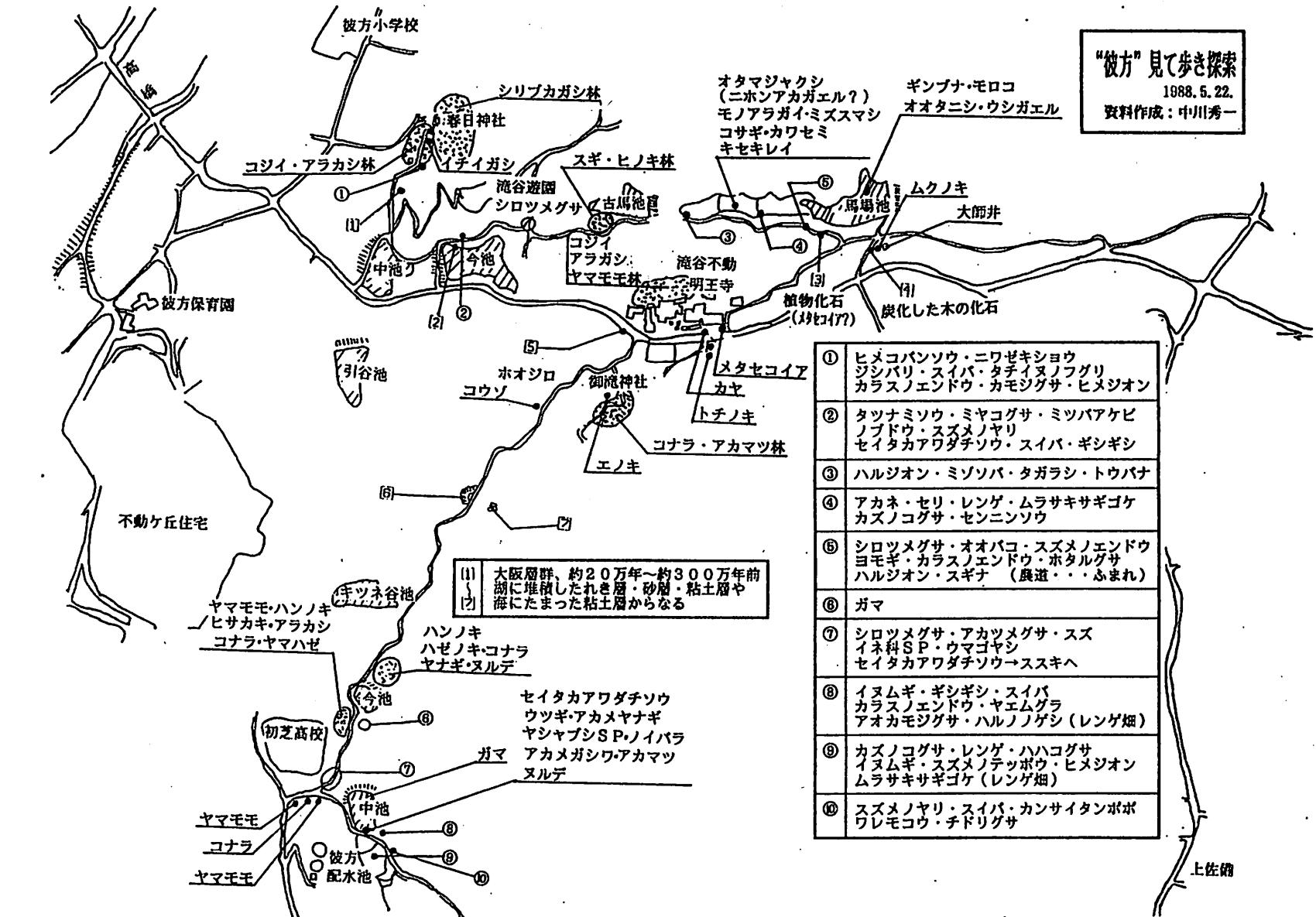
の谷まで、ゴルフ場の計画があるということから、それに反対するために計画された。

この予定地は、富田林市のはば真ん中にあり、私たちの住まいと接している。その多くの部分が、先人が守り続けてきた里山林であり、季節とともにめぐるさまざまな動、植物とともに、数千年の歴史のなかに生きている。私たちがほんの少し遠出すればだれにも接せるみじかな自然である。

すでに述べたように、予定地のほとんど全てが、大阪層群とよばれるやわらかい地層である。千里、泉北のニュータウン、富田林、河内長野市の大規模宅地造成は、大阪層群の上である。

ブルトーザーで表皮をはいだ後に造られる人工の芝生は、人間の生活になじまない。虫もなく、鳥さえこない“沈黙の空間”はねがい下げだ。すでに、人間をとりまく様々な身近な動植物がなくなり、単純化した大都市での人間の感性に、徐々に変化が出ているとされている。特に子どもたちに。

ゴルフ場がもつ、大量の農薬、肥料の散布による地下水、河川の水質汚染などの問題については今はふれない。



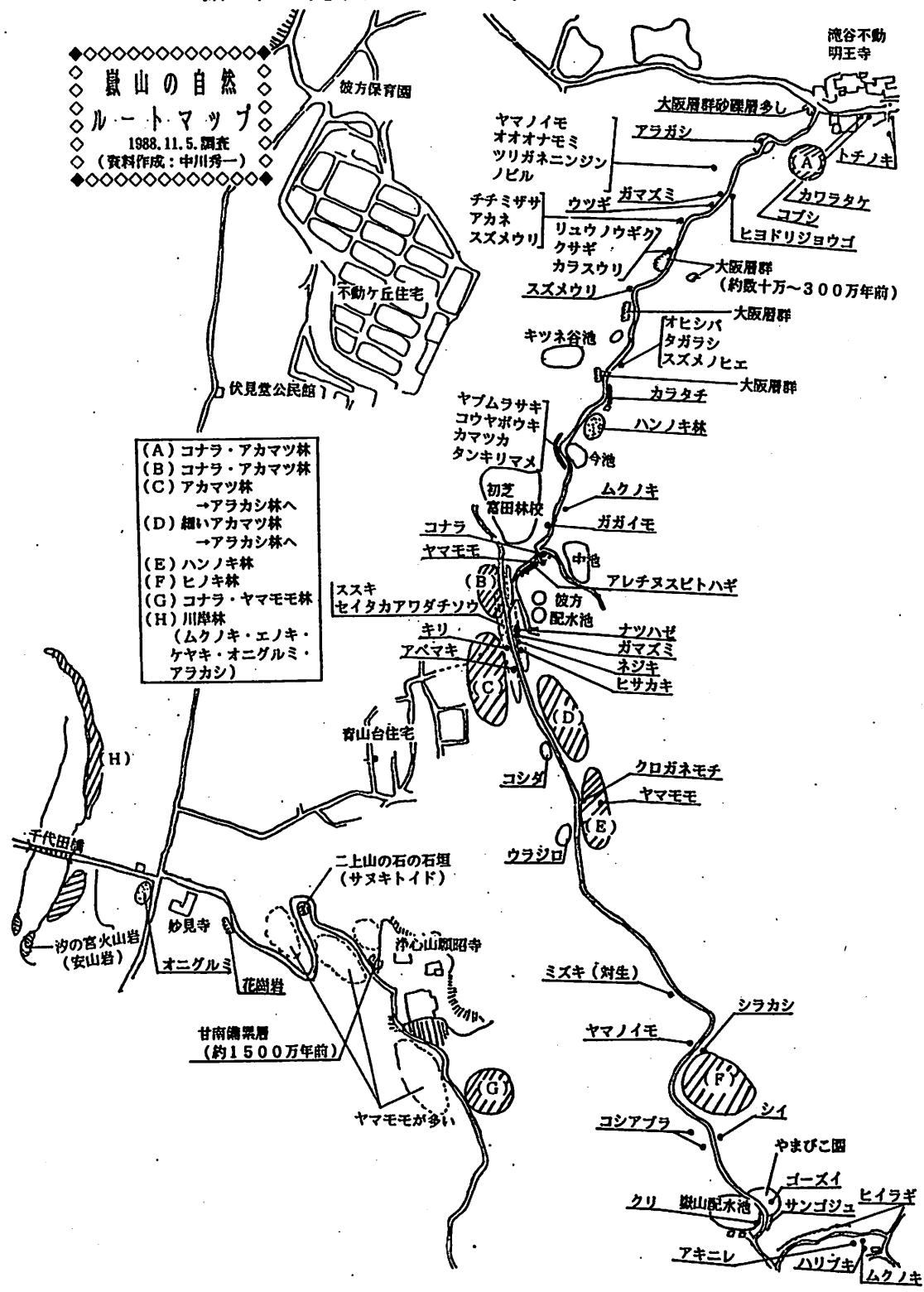
# 彼方周辺の4つの森林のタイプ

ひざより高い木を100本リストアップしてみると（百本木調査）

①春日神社 シリブカガシ林 神社の森で、昔から保護され、人間が切り開く前の森林の姿がしのばれる。府下でシリブカガシは珍しい。			②滝谷不動 明王寺 アラカシ・コジイ林 寺の裏山の森。もとコジイ林であったが、かなり人為が加わっている。			③古馬池横 スギ・ヒノキ林 材木をとるための人為的な植林。林内がとても暗い。			④御滝神社裏 コナラ・アカマツ林 いわゆる里山林、人家に近く昔から、生活全般に利用されてきた森。		
1981.9.27.調査			1988.4.24.調査			1988.5.18.調査			1988.5.19.調査		
No	種名	本数	No	種名	本数	No	種名	本数	No	種名	本数
1	リブカガシ	14	1	コジイ	3	1	スギ	60	1	コナラ	15
2	アラカシ	10	2	アラガシ	23	2	ヒノキ	26	2	アラガシ	9
3	モチノキ	4	3	シラガシ	1	3	アラカシ	6	3	クリ	8
4	ソヨゴ	2	4	コナラ	6	4	ヒサカキ	6	4	アカマツ	7
5	サカキ	30	5	クスノキ	7	5	ネズミモチ	1	5	マルバウツギ	2
6	クロガネモチ	5	6	ヤツデ	2	6	ナワシログミ	1	6	モチツツジ	22
7	ヤマハゼ	1	7	ウリミズザクラ	2				7	ツルグミ	1
8	ネジキ	2	8	ヒサカキ	5		合計	100	8	マルバアオダモ	5
9	カナメモチ	2	9	ヤマモモ	13				9	カナクギノキ	2
10	ネズミモチ	4	10	ネズミモチ	8		下草		10	ネズミモチ	3
11	ヒサカキ	8	11	モチノキ	2		ゼンマイ、ベニシダ		11	ヒサカキ	6
12	ヤブニッケイ	1	12	ナナメノキ	4		ナワシログミ、ティカカズラ		12	ヤマハゼ	5
13	クロバイ	7	13	モチツツジ	5		アラカシ、ミツバアケビ		13	ネジキ	3
14	コバノガバズミ	3	14	トバラ	4		ジャノヒゲ、シシガラシ		14	ネムノキ	2
15	ヤマウルシ	2	15	ヌズ	1		ネズミモチ etc.		15	ヤマウルシ	1
16	モチツツジ	1	16	ネジキ	1				16	ウリミズザクラ	5
17	フジ	1	17	サカキ	1				17	エノキ	1
18	シャンシャンボ	1	18	サクラ SP	1				18	ナツハゼ	1
19	ヤブムラサキ	1	19	カナメモチ	1				19	イリノキ	1
	合計	100	20	イヌビリ	2				20	ソヨゴ	1
下草 シリブカガシ、ベニシダ、コシダ ヤブコウジ、サルトリイバラ ジャノヒゲ、ノブドウ ヘクリカズラ、アオキ アオツツラフジ、ヒサカキ ナツフジ、コウヤボウキ サカキ、etc.			21	イロハモミジ	3					合計	100
			22	ヤブツバキ	2						
			23	シロダモ	1						
			24	スギ	2						
				合計	100						
下草 ジャノヒゲ、ミツバアケビ ヤツデ、ネザサ、ノイバラ ヤブコウジ、ノキシノブ ヤブラン etc.			下草 ティカカズラ、コウヤボウキ ベニシダ、アラカシ アオキ、ツルグミ、ノブドウ シシガラシ etc.								

資料作成：中川秀一

## 巖山自然観察会のルート (1988.11.13.)



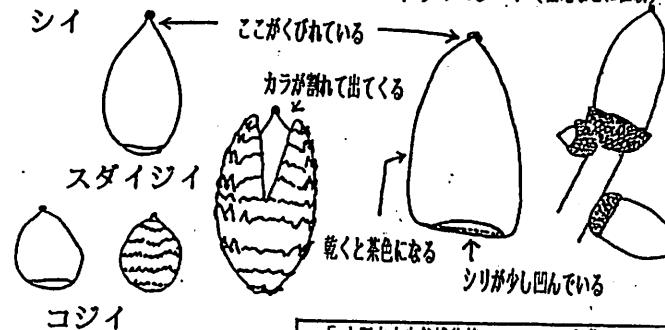


# ドングリ

ドングリを食べたことがありますか。たいていシブいものですが、なかにはおいしいもの（シイ・マテバシイ）、それほどシブくなく生で食べられるもの（シリブカガシやイチイシイなど）もあります。

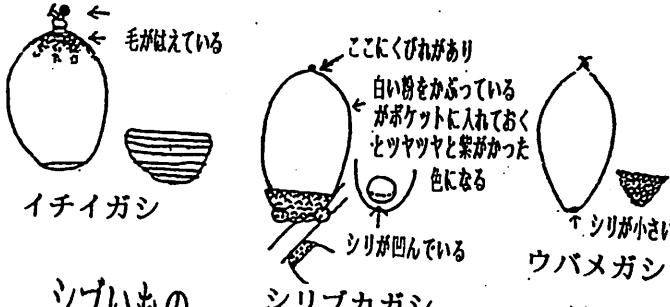
大昔の人たちにとっては、  
ドングリは大切な食料だつ  
たらしく、各地の遺蹟（昔  
の人の生活のアト）からド  
ングリがでます。

# おいしいもの

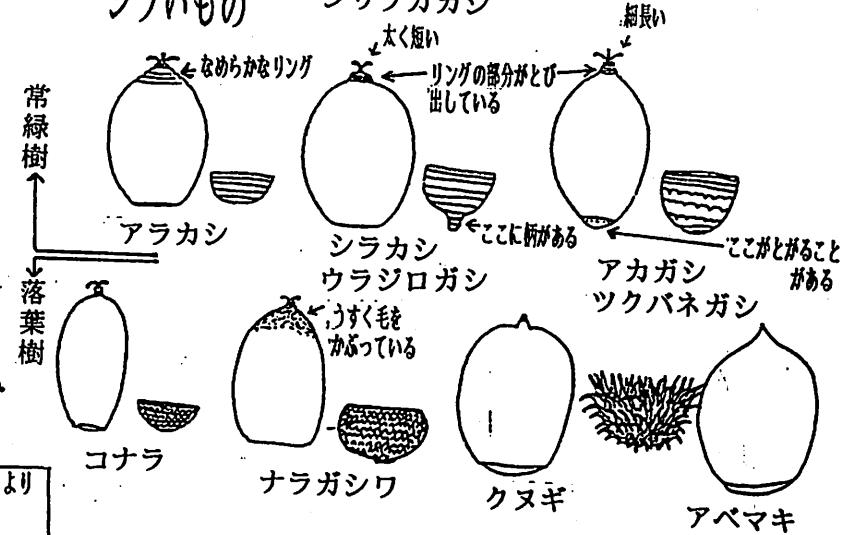


「大阪市立自然博物館 ルーフレット集No. 1」より  
に書き加えています

それほどシテくないもの



シブいもの



#####
嶽山自然観察会(1988.11.13)  
に参加して
#####

### 驚きと感動の4時間

上角敦彦

「卯の花の匂う垣根に・・・♪」の卯の花は「ウツギ」であり、枝を折ると中空であるから、漢字では「空木」となる。ムクノキの実は熟すと干しぶどうのようで、ムクドリの大好物だから「ムクノキ」。紙漉きの里、吉野まで行かなくても「コウゾ」がある。

クヌギとナラとクリの区別もつかない私が、嶽山のすそ野歩きの中でおしえてもらったほんの一部である。

嶽山がむかし（はなはだ無責任な言い方であると、今回参加させてもらって感じる・・・）、湖や海の底を何回も繰り返したこと、くるみの木がこんなにも身近な所（ナイショ!!）にあったことなど、驚きと感動の四時間余りだった。

### 山歩きの楽しみがふえた

田淵武夫

滝谷不動の手前の細い道を右に下り、谷川を渡るともう自然の中。田畠をはさむ小さな谷「奥の谷」である。

この春、下見に訪れた時にはガマズミ、ツツジ、サクラ、キンポウゲ、スミレなどが咲き乱れていた。今はヤマハゼの紅が点在し、

ガマズミの赤い実が所々に見られる。この赤い小さな実は、子どものころ「ミソマメ」と呼んでいた。そのすっぱい味がなつかしい。干しぶどうに似た黒い実がたくさんついた大きなムクの木があり、これがまたなかなかの味。

草や木を観察し、美しい花をカメラに収める。木の実を味わいながらの山歩き。山歩きの楽しみがまたひとつふえたようだ。

この嶽山は私の家から自転車で約20分。気軽に味わえるこの自然を失いたくはない。

### 自然は歴史を持っている

三嶋富士夫

今まで、季節の変化で「花が咲き、実がなり、葉が色づく」程度にしか見ていなかった草花や樹木。今回「自然の探索」に参加して、草花や樹木の種類の多いことに驚きました。（学校では、一定学習したと思いますが）

特に、「タンポポ」のように国産物（日本古来からあるもの）と輸入物（舶来）とが混在して、一目で判断できませんでした。いつ輸入してきたのか、またその経路はどうであったのか説明を受ける中で、自然には長い歴史があるんだなあと感激しました。

今、この自然（野山や田畠）が宅地開発や道路などにどんどん変わっているのを見ると、非常に残念です。

富田林には、その自然があるから移り住んでこられた新住民が多い中で、この自然を残していくことが大切であると感じました。

## 資料

### 滝谷地区の自然保護

(「都市と自然」1985年8月号  
No. 113より)

富田林市彼方の津田貴司さんから、「滝谷地区の自然をゴルフ場開発から守ってほしい」と鳥のリスト、植物・動物の説明つきで手紙をいただきました。

そこで、7月13日に、現地の様子を見ると共に、開発のすすみ具合について知るために富田林を訪ねました。

津田さんの説明と現地を見た様子を併せて現地を解説します。滝谷地区は富田林市南部石川水系の佐備川と石川にはさまれ、嶽山(278m)の北側の滝谷不動を中心とした標高70~150m程の丘陵地帯です。植生の大半は、尾根にアカマツ、中腹にはコナラ、シイ、クス、モミジ、クヌギ、サクラ、ケヤキなど、下層にはイヌツゲ、ヤブコウジ、ツツジが生えるという典型的な二次林ですが、スギが混じっている所もあります。また、一部はミカン畠、竹林になっています。谷間には、溜池が多数あり、その下では水田耕作が行われていますが、一部は休耕田になっています。以上のように、南河内~泉南地域で見られる代表的な自然といえるでしょう。

地域の産業は果樹、野菜、稻作などが中心で、林業はあまり盛んではありません。

観光資源としては滝谷不動が有名ですが、ここを中心に旅館街、また滝谷不動~嶽山間を河内ふるさとの道が通っています。都市計画上、この地域は市街化を抑制し、

農業を振興させる区域に入っています。

さて、ゴルフ場開発問題ですが、富田林市開発指導課の話では、昨年12月に、初芝学園から嶽山、楠風台にかけての100ヘクタールほどをゴルフ場にする計画の相談があったそうです。このとき、市街化調整区域内では開発できない農用地も計画に含まれていたので、これをはずすよう説明したが、その後新たな相談はないそうです。

開発にあたっては、①府開発指導課での事前協議（市への意見書がつけられる）②市開発指導課での事前協議 ③市開発指導要綱に基づく関係課との協議 ④本申請を市に行い、府知事から許可をもらう、という手順で進むのですが、まだ事前協議以前の段階で足踏みをしているわけです。おそらく、地元地権者との相談が進んでないと思われます。

しかし、話がまとまり、申請が行われた場合、ゴルフ場に対しては（自然のまま40%、植樹により25%、計65%の緑地保全義務がありますが、第2特定工作物であるので、市街化調整区域内でも建設を停止させる法的根拠はないそうです。

なお、北側の地域では、住宅開発の話もあり、同じような進行状況とのことでした。取材中、開発にせよ、自然を守るにせよ、地元に意見の対立を持ち込むことを気にかける声もきかれました。

協会では対策を検討中ですが、関心をおもちの方、ご連絡ください。

また、近いうちに現地を見る会を行いたいと思います。

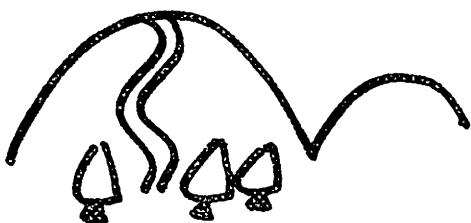
瀬谷の島 番号	科	島名	数	備考
1	ワシタカ	トビ	1	時おり見られる
2		サシバ	3	毎年夏繁殖する
3		ノスリ	2	冬見られる
4		ハイタカ	2	"
5		オオタカ	1	"
6		クマタカ	1	秋に記録がある
7		ハチクマ	1	"
8	フクロウ	フクロウ	2	3月頃よく鳴く繁殖している様子
9		アオバズク	3	毎年夏繁殖する
10	カラス	カケス	3	秋冬に多いが年中いる
11		ハシブトガラス	3	年中いる
12		ハシボソガラス	3	"
13	ホオジロ	ホオジロ	4	冬に沢山見られる
14		アオジ	5	冬にくる
15		クロジ	3	"
16		ミヤマホオジロ	2	年中いる
17	スズメ	スズメ	5	冬寒ければくる
18	アトリ	アトリ	3	毎年くる
19		シメ	3	年中いる
20		カワラヒワ	3	年中いるが冬群れになり多い
21		イカル	4	年中沢山いる冬混群をつくる
22	シジュウガラ	シジュウガラ	5	"
23		ヤマガラ	4	寒い冬混群中に少数いる
24		ヒガラ	2	年中沢山いる冬混群をつくる
25		エナガ	5	年中いるが秋冬に多い
26	ヒヨドリ	ヒヨドリ	6	見にくる
27	サンショウクイ	サンショウクイ	4	年中いる
28	モズ	モズ	3	冬にくる
29	ツグミ	ツグミ	4	"
30		トラツグミ	4	"
31		シロハラ	4	" 渡りの途中のものもいる
32	ウグイス	アカハラ	3	年中いる
33		ウグイス	4	春によく鳴く
34		センダイムシクイ	3	わたり途中に立ち寄る
35		エゾムシクイ	2	冬にくる
36	ヒタキ	ルリビタキ	3	"
37		ジョウビタキ	4	年中いるが秋冬多い
38	メジロ	メジロ	5	年中いる
39	セキレイ	キセキレイ	3	"
40		セグロセキレイ	3	冬にくる
41	ツバメ	ピンズイ	3	夏にくる
42		ツバメ	4	"
43	アマツバメ	コシアカツバメ	2	秋渡り途中通過する
44	ヨタカ	アマツバメ	2	夏にくる
45	キツツキ	ヨタカ	2	年中いる秋冬は混群
46	カワセミ	コゲラ	4	年中いる
47		カワセミ	3	6月頃しばらく立ち寄る
48		アカショウビン	2	年中いる
49	ハト	キジバト	4	冬群れでくる
50	カイツブリ	アオバト	3	年中いる
51	キジ	カイツブリ	3	"
52		キジ	3	"
53	ク이나	コジュケイ	3	夏にくる
54		ヒク이나	3	"
55	チドリ	パン	2	春秋見られるが年中いる様子
56		イカルチドリ	2	"
57	サギ	コチドリ	2	年中いる
58		ゴイサギ	3	"
59		コサギ	3	夏にくる
60	ホトトギス	ミゾゴイ	2	"
61		ホトトギス	3	渡り途中立ち寄る
62		ツツドリ	2	"
63	ムクドリ	カッコウ	1	冬群れでくる
64	ヒバリ	ムクドリ	3	時々田畠にいる
65		ヒバリ	2	冬にくる
66	ガンカモ	オナガガモ	3	巣を作っている可能性がある
67		カルガモ	3	

## 表紙の写真

### ササユリ（百合科）

山で出会った地元の老人に尋ねたら「昔はたくさん咲いていたが、最近はほとんど見かけなくなった」とのこと。嶽山中腹の草むらに数本ひっそりと咲いているのがやつと見つかった。

撮影：1988.6.19. 嶽山にて、田淵



### 編集後記

最近富田林でも、道路、工場、マンションなどの建設が進み、豊かな緑がつぎつぎと失われてきている様子に心を痛めています。自然を守るとりくみが必要だと話し合っていた矢先“嶽山にゴルフ場建設の計画”との情報が入り、これは大変、何はともあれ「嶽山の自然を守れ」と昨年春と秋に観察会を行いました。このときの資料をまとめておこうと思い立ったのがこの冊子の始まりです。

「...でホタルをみかけた」といった情報、草花や昆虫などの写真あるいは自然に関することなどお寄せください。自然を愛する市民の小冊子として育て、広げていきたいと思います。年2回程度の発行をめざします。  
T.

## 富田林の自然を守る会

### 目的

- 身近な自然に親しみ、自然を愛する心をやしなう。
- 富田林の自然を守り、住みよいまちづくりをすすめる。

### 活動

- 自然観察会や調査活動を行う。
- 講演会などを開き自然保護について学習する。
- 冊子「富田林の自然」を発行する。  
(会員には行事の案内、冊子などを配布する)

### 会費

個人会費：年間 1000円

団体会費：“” 1口 2000円

### 事務局員

上角敦彦（富田林市若松町4-6-29 TEL 24-8757）

三嶋富士夫（富田林市山中田170 TEL 24-2157）

山田裕康（千早赤坂村千早989 TEL 74-0085）

田淵武夫（富田林市若松町4-16-21 TEL 14-7960）

### 連絡先

富田林市職員労働組合（TEL 25-1973）